

—伴走型小規模事業者支援推進事業—

大子町における小規模事業者の  
**景況調査報告（第3回）**

平成29年10月～12月

平成30年2月

大 子 町 商 工 会

**目的：**

大子町の小規模企業者の景況感を継続して調査することで、大子町における小規模企業者全体で景況感を共有することを目的とする。

**方法：**

製造業・建設業、小売・卸売業、サービス業（飲食店等を含む）からサンプルの小規模企業者を約 30 社選び、四半期ごとに景況感の聞き取り調査を行う。聞き取り方法は、直接面接もしくは電話にて行う。

調査期間は平成 29 年 1 月～平成 33 年 12 月までとし、四半期ごとに景況感をまとめ、報告する。

**対象事業者：**

大子町にて事業を行っている小規模事業者

**調査項目：**

- ① 売上高、販売単価、粗利益、資金繰り、人材確保、景況感、風評被害について前年度同時期と比較した。
- ② 調査期間における設備投資の有無、および、今後の設備投資の予定を調査した。
- ③ 大子町で事業を行う上で、現在認識している課題・問題点を調査した。

### 調査属性

製造業（食品加工業を含む）	6社
建設関連業	6社
小売業（卸売業を含む）	9社
サービス業（飲食、観光含む）	10社

### 事業者の規模

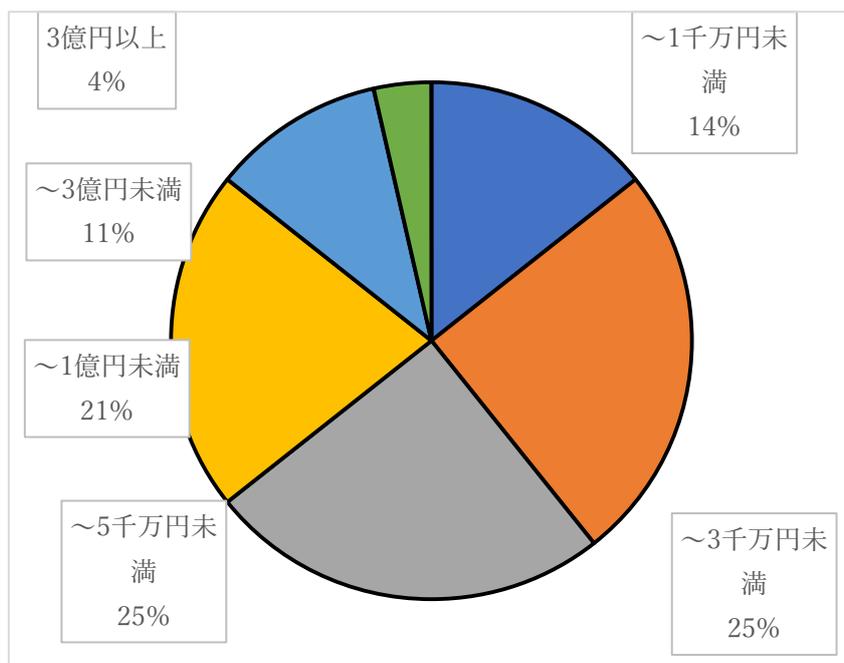


図1 売上規模による事業者の調査割合

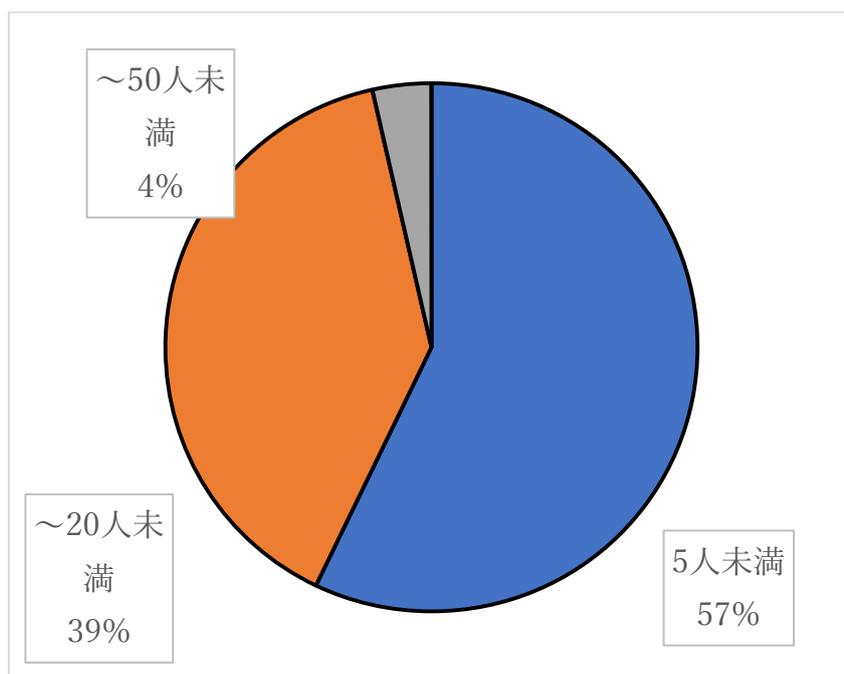


図2 従業員規模による事業者の割合

## 1. 景況感について

大子町の特徴の一つとして、3.11 東日本大震災による風評被害が懸念されます。サービス業を除く事業者では、風評被害の影響を感じない方も多いようです。しかし、サービス業においては、風評被害が解消してきたとは言い難いようです。また、足元では、粗利益、景況感、改善されている傾向にあります。特に製造業、建設業の回復が著しいようです。

表1 平成29年10月～12月間のD I※1

	売上高	販売単価	粗利益	資金繰り	人材確保	景況感	風評被害
製造業 (食品加工含む)	16.7	0.0	16.7	16.7	▲ 16.7	0.0	0.0
建設関連業	16.7	33.3	16.7	▲ 16.7	0.0	33.3	0.0
小売業 (卸売業含む)	▲ 44.4	▲ 22.2	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 44.4	11.1
サービス業 (飲食、観光含む)	▲ 30.0	20.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 20.0
全業種計	▲ 16.1	6.5	▲ 6.5	▲ 6.5	▲ 12.9	▲ 16.1	▲ 3.2

### ※1 D I (Diffusion Index : 業況判断指数)

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものを%ポイントで表した景気の判断指数の一つです。プラスは良くなった。マイナスは悪くなった。と、とらえることができます。

大子町における、業種別、項目別のD Iの推移を以下に示します。

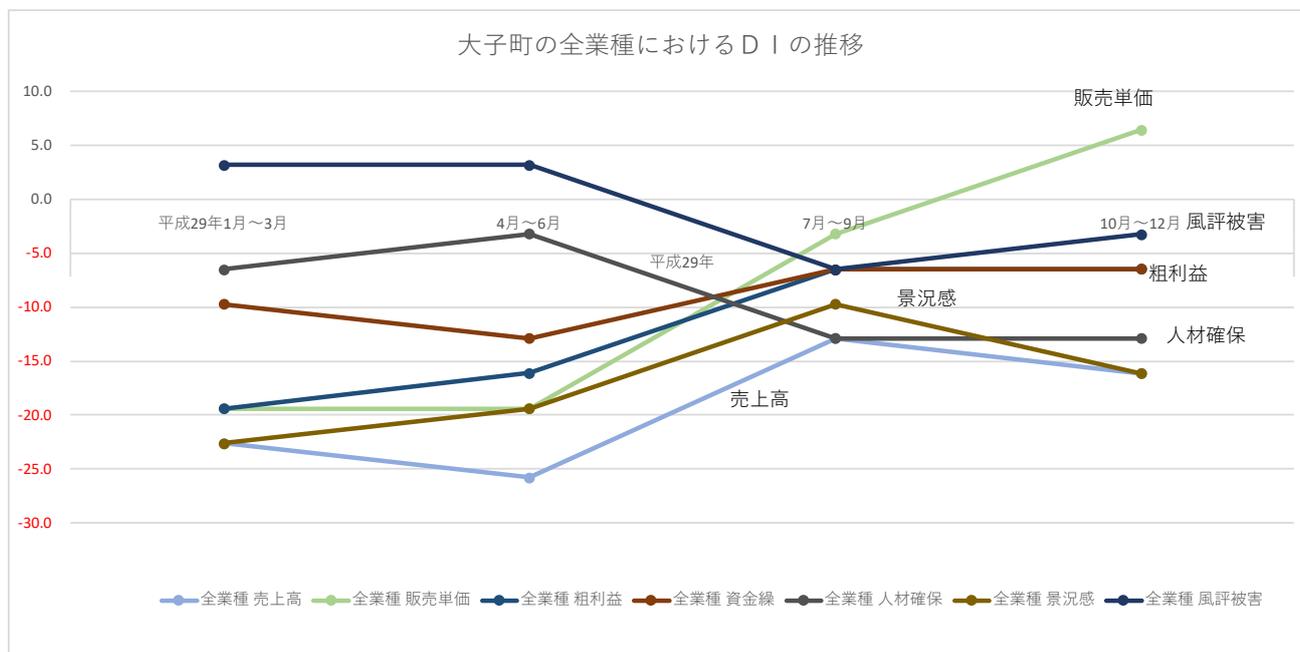


図1 大子町の全業種におけるD Iの推移

平成29年10月～12月においては、概ね回復傾向であると読み取れます。特に販売単価の上昇が収益を伸ばしています。ただし、人材の確保が全体的に難しくなっていることが伺えます。

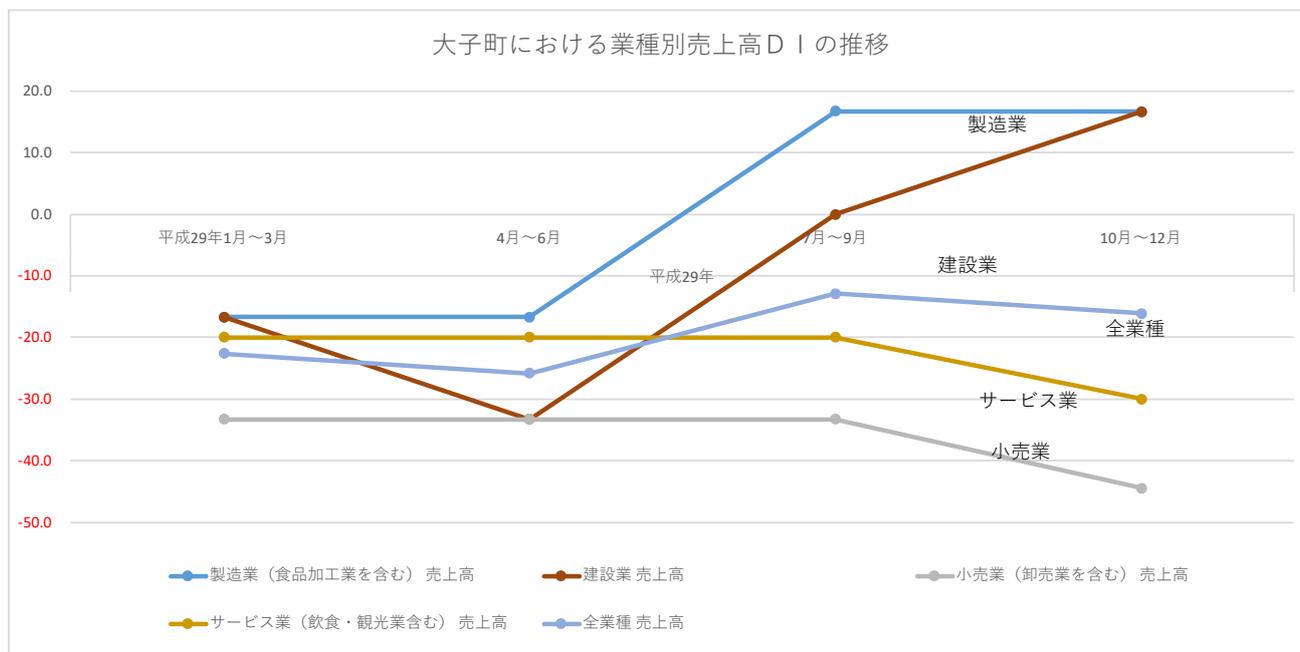


図2 大子町における業種別売上D Iの推移

製造業、建築業の足元では売上が伸びており全産業をけん引する形になっています。サービス業、小売業の業界では、売上の低下を感じる企業が増えています。

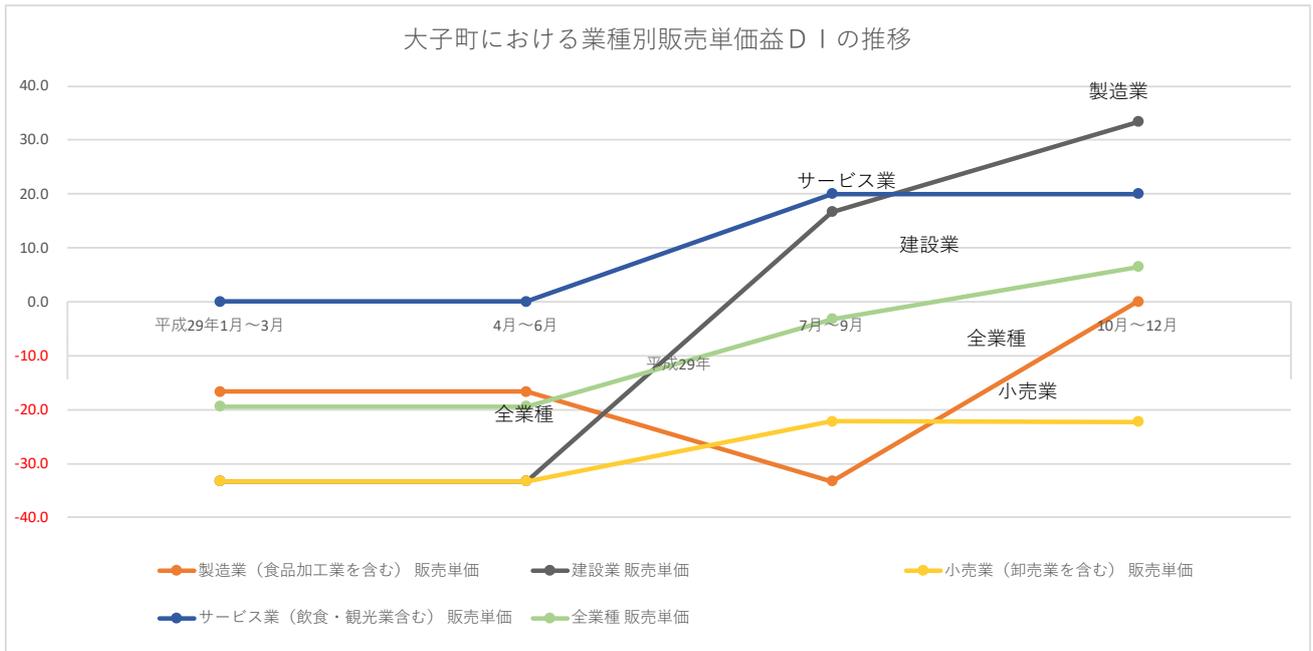


図3 大子町における業種別販売単価益D Iの推移

全業種において、販売単価の上昇傾向が見られます。特に製造業の傾向が著しいようです。全体的に回復の傾向があるとはいえ、小売業では厳しい環境が続いています。

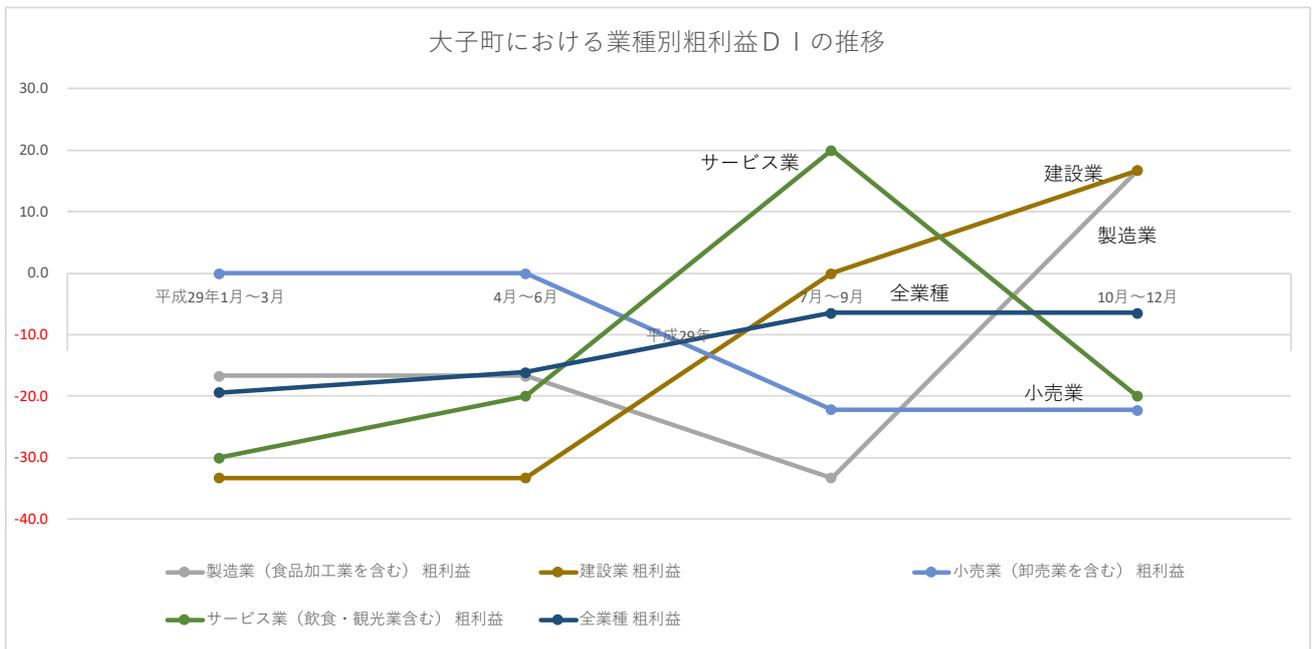


図4 大子町における業種別粗利益D Iの推移

粗利益に関しては、製造業・建設業で好調のようです。10月～12月という観光シーズンに関わらず、サービス業の粗利益が低下していることは今後の課題になるかと思われます。

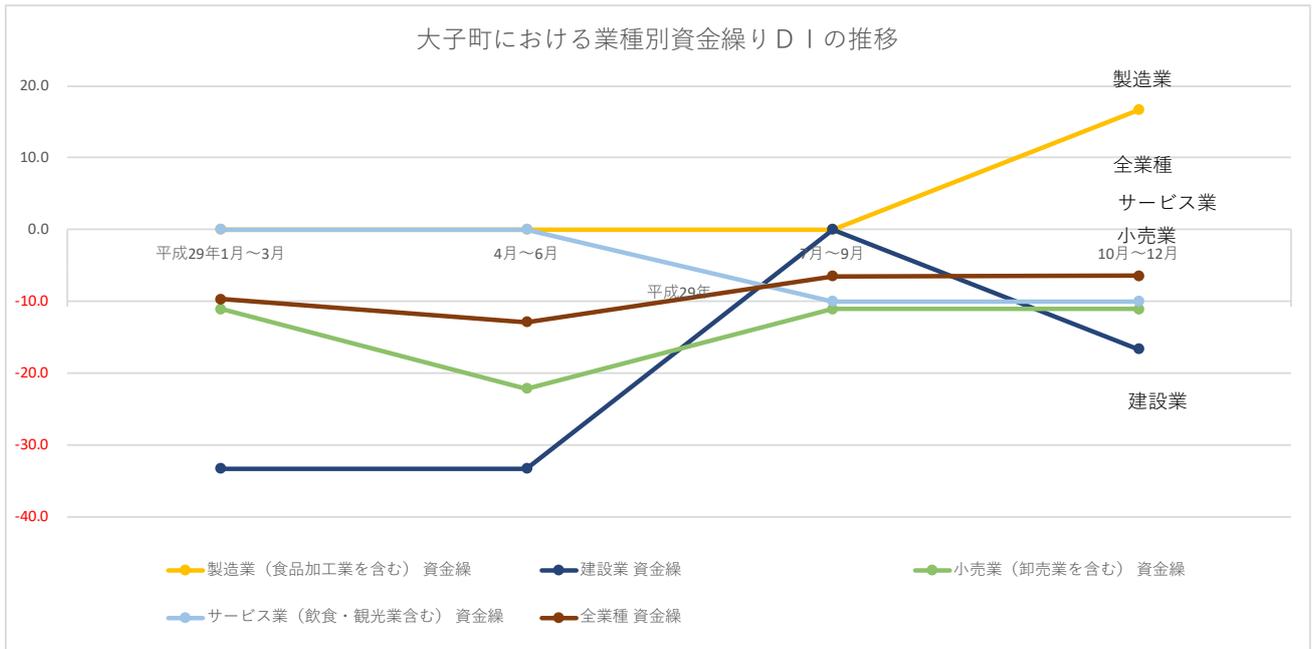


図5 大子町における業種別資金繰りDIの推移

サービス業は利益額の低下から資金繰りも悪化している傾向があるようです。特に29年の後半が悪くなっているようです。建設業に関しては、売上の上昇があるにもかかわらず資金調達に窮しているようです。調達方法に課題があるのではないかと懸念します。

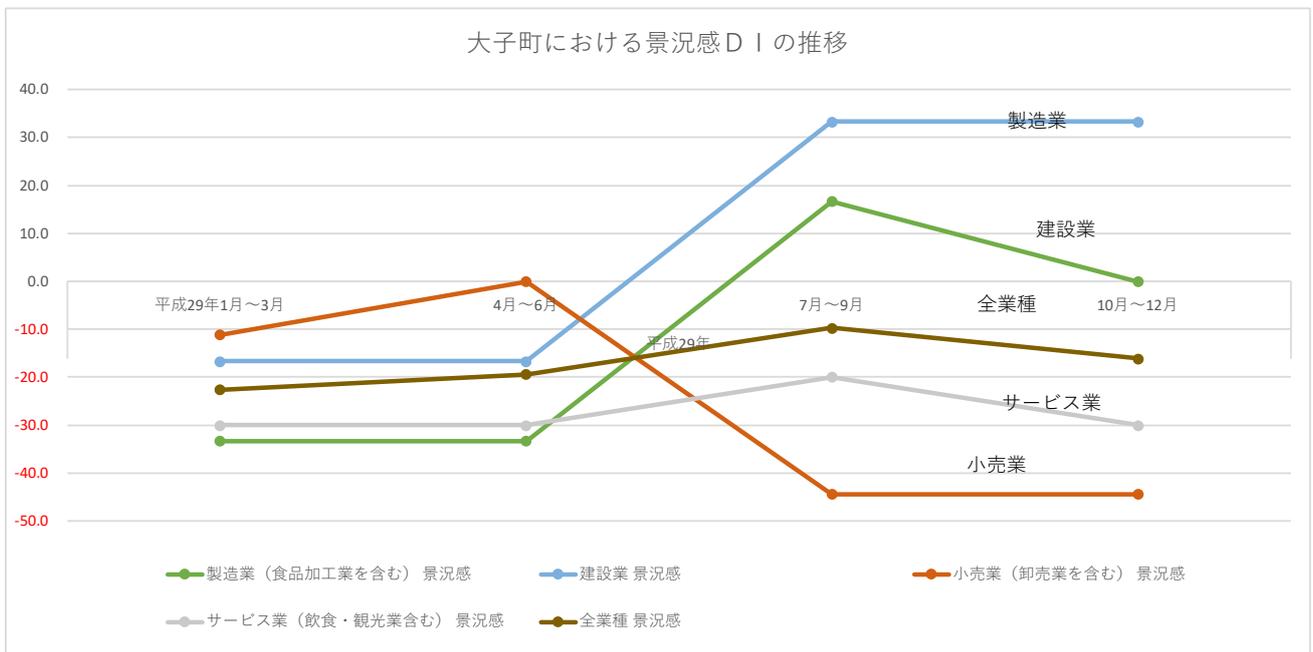


図6 大子町における景況感DIの推移

景気が良くなったかどうかを見る指標です。製造業者は景気が良くなったと感じる事業者が多くなっています。しかし、利益率の低下などがみられ、安心するには時期尚早でしょう。

対して小売業者の危機感は強いものが感じられます。人口の減少・高齢化などからくる近隣住民の消費活動の減少に対して、今までと異なる視点からの対応が必要になるかと思えます。

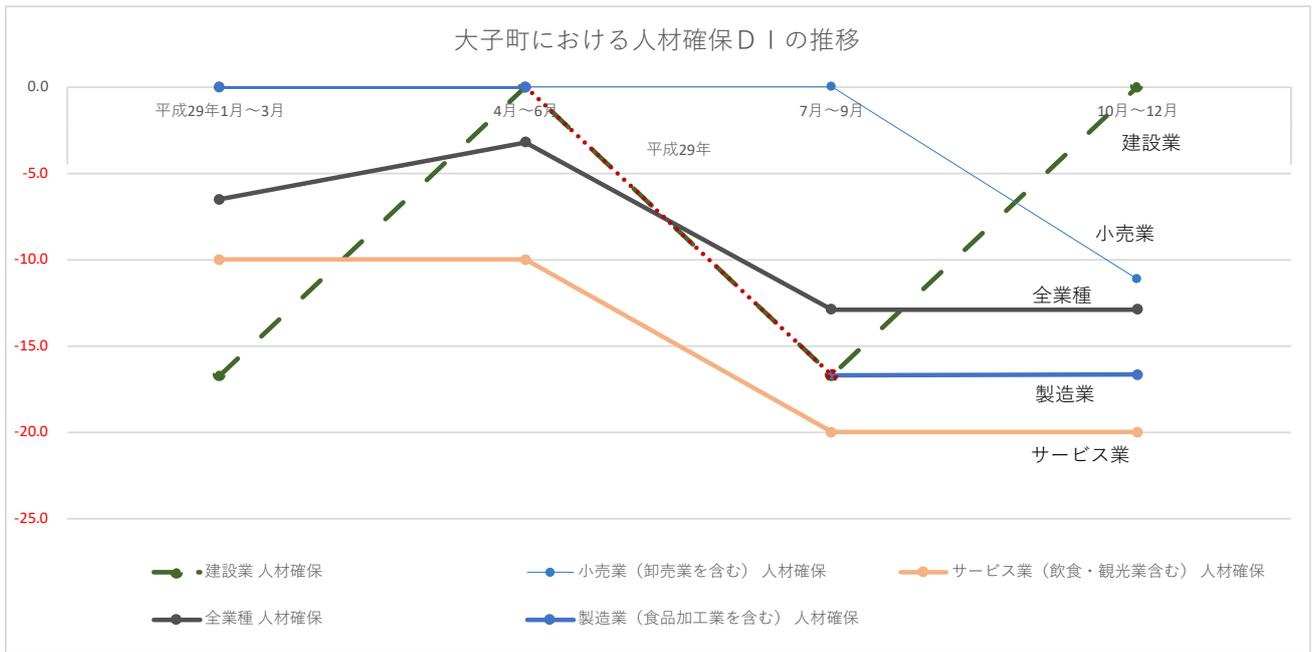


図7 大子町における人材確保DIの推移

全ての業種にいえることですが、人材の確保が難しくなっています。人口の減少、高齢化、若者の地元離れと言ってしまうえばそれまででしょうが、魅力ある職場、仕事を生み出すことも事業者には必要なことなのかもしれません。

## 2. 設備投資に関して

この景況感調査を始めてから、今後設備投資を行う予定の事業者が増えています。何かしらのアクションを採ることで、ビジネスチャンスを感じている事業者がいることがうかがえます。

それぞれの事業者が、景気回復を感じているために設備導入を考える事業者の割合がふえているのではないかと思います。

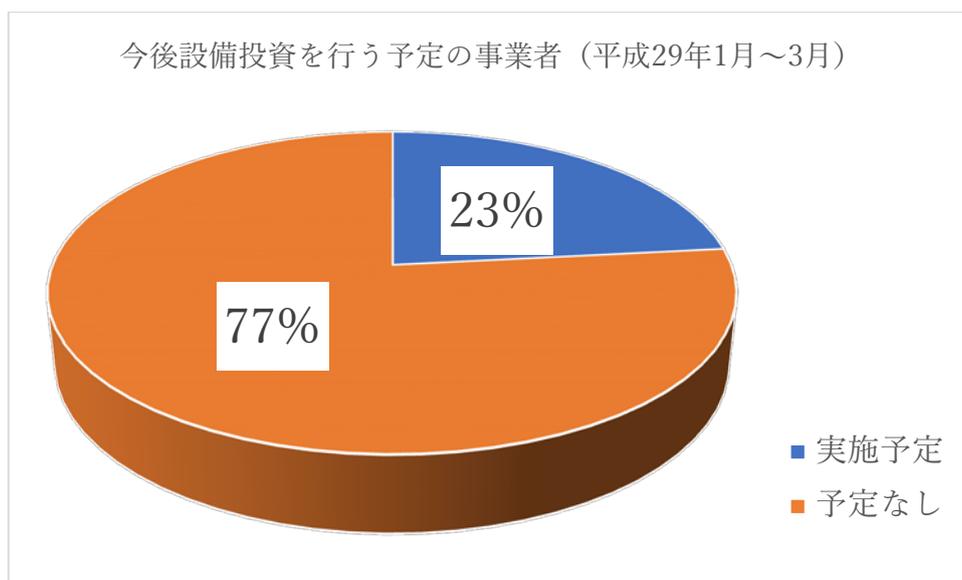


図8 今後設備投資を行う予定のある事業者の割合（平成29年1月～3月）

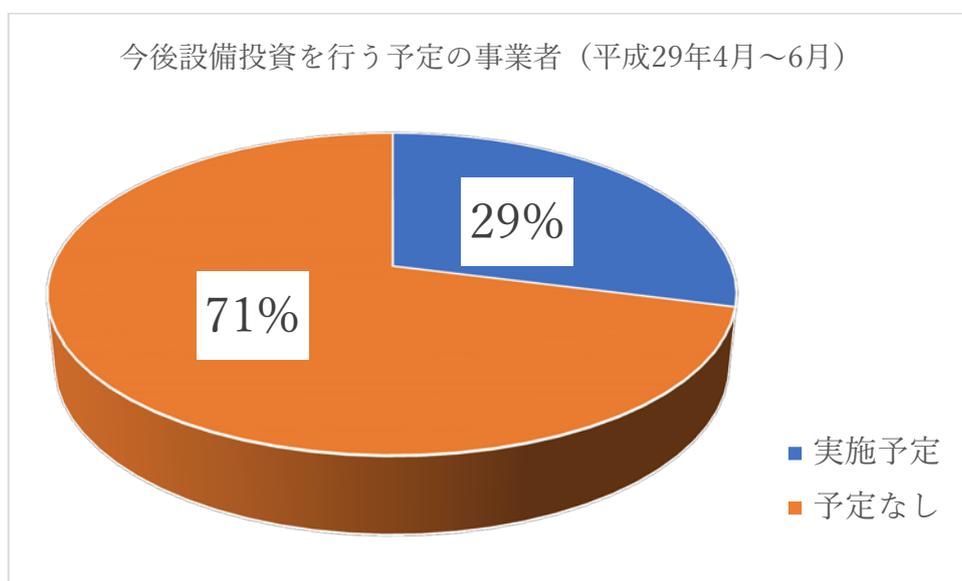


図9 今後設備投資を行う予定のある事業者の割合（平成29年4月～6月）

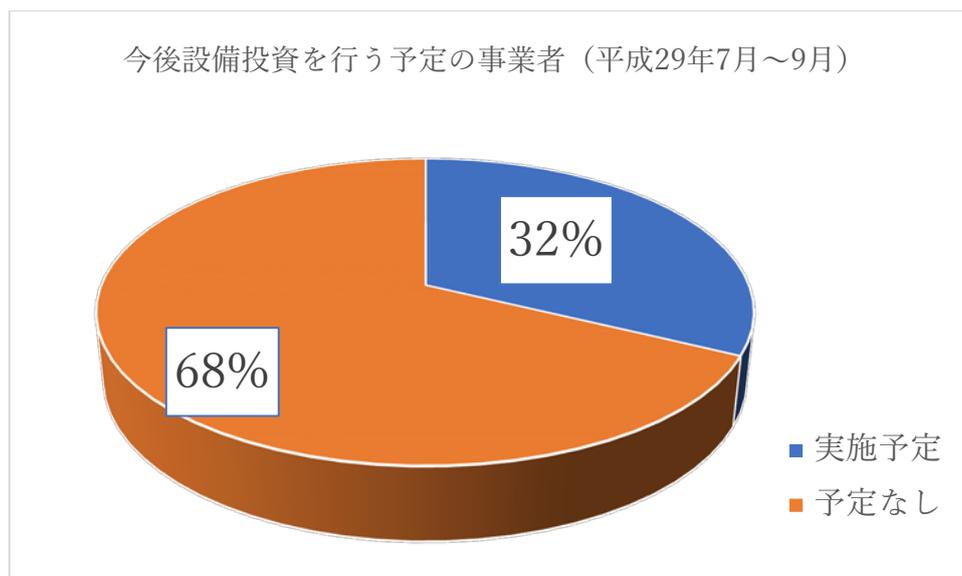


図 10 今後設備投資を行う予定のある事業者の割合（平成 29 年 7 月～9 月）

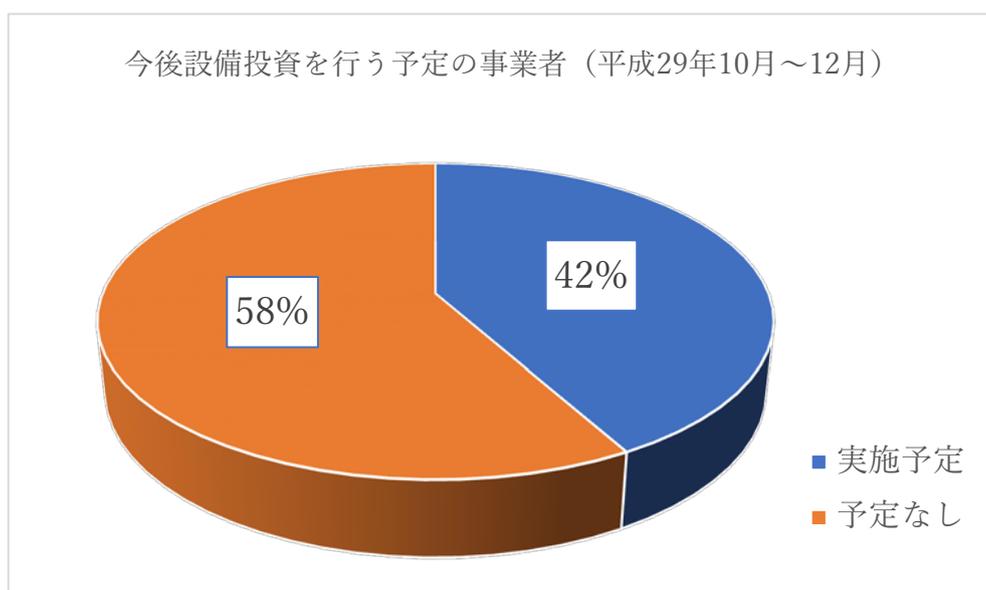


図 11 今後設備投資を行う予定のある事業者の割合（平成 29 年 10 月～12 月）

### 3. 小規模事業者の課題意識について

小規模事業者の課題意識は図 12 のようになりました。最も重視する課題は「需要の停滞・売上の伸び悩み」と変わりませんが、「従業員の確保難」という課題が本格化してきています。1 番目と 2 番目の合計としてみれば、「従業員の確保難」が最も多い課題といえるでしょう。また、今回では、「その他」が増えています。「その他」の内容は、顧客や従業員の高齢化を指している声がみられます。

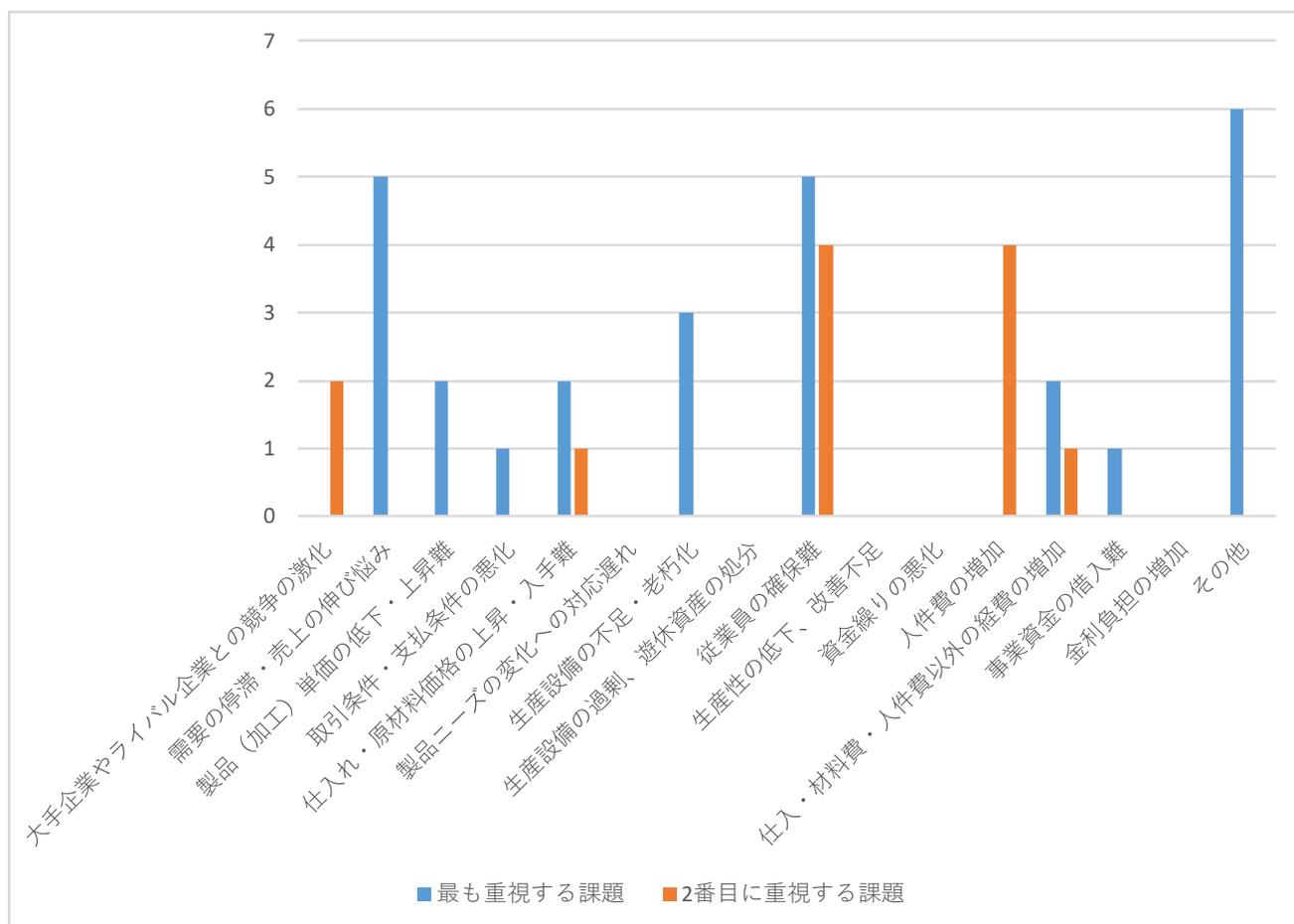


図 12 大子町における小規模事業者の課題意識（平成 29 年 10 月～12 月）